

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-60365

(P2000-60365A)

(43) 公開日 平成12年2月29日 (2000.2.29)

(51) IntCl⁷

A 01 K 85/18

識別記号

F I

A 01 K 85/00

キーワード (参考)

M 2 B 1 0 7

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平10-236847

(22) 出願日 平成10年8月24日 (1998.8.24)

特許法第30条第1項適用申請有り 1998年7月1日 発行の「月刊バスワールド 1998. 7」に発表

(71) 出願人 598114572

川村 純平

埼玉県越谷市花田1-13-13-1

(72) 発明者 川村 純平

埼玉県越谷市花田1-13-13-1

(74) 代理人 100086254

弁理士 小平 進

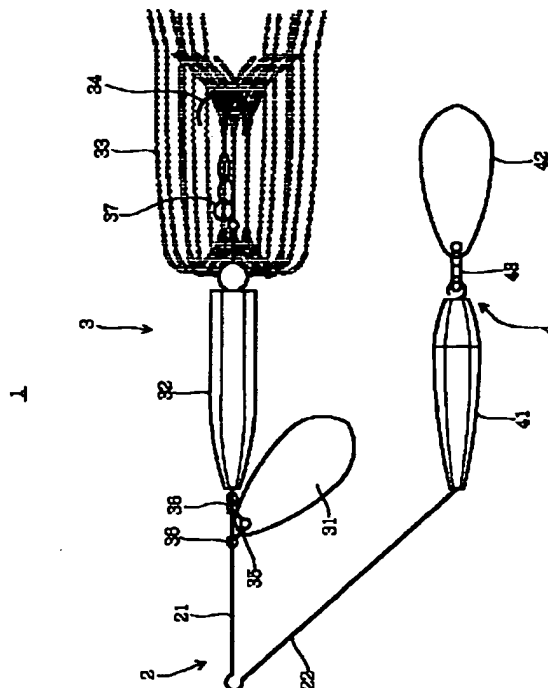
Fターム (参考) 2B107 BA42 BA44

(54) 【発明の名称】 疑似餌

(57) 【要約】

【課題】 多方向からアタックする魚のくいを良くすると共に姿勢の安定度の向上を図る。

【解決手段】 ほぼV形を形成する一方のアッパーアーム21の後端側にアッパーブレード31と、ボディ32、スカート33及び針34からなる疑似餌本体を設け、他方のアンダーアーム22の後端側に重り41とアンダーブレード42とを設け、アッパーアームはボディの軸心部を貫通すると共に後端に針を接続しており、アンダーアームは重り41の軸心部を貫通すると共に後端にアンダーブレードを回転可能に接続しており、スカート33の後端部がアンダーブレード42の後端部より後方に突出して、スカート33の後端部の突出端下方に空間がけられている。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 アッパーアームとアンダーアームとが後端側が開くように二股形に組み合わされた接続具を形成し、上記アッパーアームの後端側に仕掛けを設け、上記アンダーアームの後端側に仕掛けを設けてあり、上記アッパーアーム側の仕掛けは、アッパーブレードとこのアッパーブレードの後方側に配置している疑似餌本体とを備えており、上記アンダーアーム側の仕掛けは、重りと、この重りの後端側に配置してあるアンダーブレードとを備えていることを特徴とする疑似餌。

【請求項2】 アッパーブレードと疑似餌本体とは、アッパーアームの軸心方向に配置されていることを特徴とする請求項1記載の疑似餌。

【請求項3】 疑似餌本体は、その後端部がアンダーブレードより後方に突出していることを特徴とする請求項1または請求項2記載の疑似餌。

【請求項4】 疑似餌本体は、ボディと、このボディの後端側に取付けているスカート及び針とを備えていることを特徴とする請求項1、請求項2または請求項3記載の疑似餌。

【請求項5】 重りは、多面体に形成されていることを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3、または請求項4記載の疑似餌。

【請求項6】 アッパーブレード及びアンダーブレードは、少なくとも一方の断面が皿状に屈曲されていることを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3請求項4または請求項5記載の疑似餌。

【請求項7】 ボディ及び重りは、多面体に形成されており、アッパーブレード及びアンダーブレードは幅方向の断面が屈曲されて多面に形成されていることを特徴とする請求項4記載の疑似餌。

【請求項8】 アッパーアームとアンダーアームとがほぼV形に組み合わされた接続具を形成し、上記アッパーアームの後端側に仕掛けを構成するアッパーブレードと疑似餌本体とを設けてあり、上記アンダーアームの後端側に仕掛けを構成する重りとアンダーブレードとを設けてあり、

上記アッパーブレードは、アッパーアームに回転可能に取付けてあり、

上記疑似餌本体は、ボディと、このボディの後端側に取付けているスカート及び針とを備えており、

上記アッパーアームは、ボディの軸心部を貫通すると共に後端に針を接続しており、

上記アンダーアームは、重りの軸心部を貫通すると共に後端にアンダーブレードを回転可能に接続していることを特徴とする疑似餌。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、バス等の魚を釣

るための釣り具に用いる疑似餌に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、魚例えばバスを釣るための疑似餌であるルアーの種類として、プラグ、スプーン、スピナー、ジグ、ソフトベイト、コンビネーションルアー等がある。このコンビネーションルアーの1つにスピナーベイト (SPINNER BAIT) が知られている。このスピナーベイトは、湖沼で最もゲーム性が高いブラックバスを釣るために用いるルアーとして広く使用されている。スピナーベイトの構造は、アッパーアームとアンダーアームとをV形に組み合わせた接続金具と、各アームの後端側に設けている仕掛けとからなるものである。アッパーアーム側の仕掛けは、アッパーアームに取付けた1枚又は2枚のブレードからなり、アンダーアーム側の仕掛けはアンダーアームに取付けた疑似餌本体 (ルアー本体) からなる。この疑似餌本体は、アンダーアームが貫通している重り (ヘッド) と、この重りの後端に取付けたスカートと、このスカート内に位置しかつ重りの後端から突出したアンダーアームの後端に接続している針 (フック) とからなる。スピナーベイトは、水中での遊泳 (スイミング) 時には低重心の重りの存在によりアッパーアームを上側に、アンダーアームを下側にしてV形の先端を頭にして起立状態の姿勢を保ちながら移動し、移動の過程で下側のスカートが上下に振れながらブレードはアッパーアームを中心として回転しながらルアーは遊泳され、この時ブレードのエッジ面とフラット面の回転によるフラッシングにより、魚はルアーに誘われ、これをアタックし、最終的に針に食い付くのである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のスピナーベイトによると、魚が下から上に向かってルアーにアタックする場合には確実に針で捕えることができるものの、例えばルアーが中層から底層を遊泳する場合には、魚は上から下に向ってルアーにアタックすることが考えられる。このような場合には、魚は激しく動くアッパーアームに取付けられるブレードに誘われるため、下側のスカート内の針に掛からないおそれがあり、その上、ルアーが湖沼の底面に極めて近い位置を遊泳する場合には底面とスカートとのスペースが狭いために魚が食い付きにくく、特にルアーの疑似餌本体が着地した状態で移動する場合に上記不都合が著しく、魚の捕獲率 (ヒット率) を良くするための改善が望まれていた。また従来例によると、回転するブレードと低重心を持つ重りとの上下のバランスを均等にしてルアーの安定した姿勢を保つ工夫がされているが、特にスピナーベイトをゆっくり、しかも浅い所で遊泳させる場合、バランスの不均衡により、倒れやすく期待する安定した姿勢を保つことが容易でない課題があった。この発明の目的は、多方向からアタックする魚の食いを良くすると共に姿勢の安定度の向上を図るこ

とにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】この発明は、アッパーアームとアンダーアームとが後端側が開くように二股形に組み合わされた接続具を形成してある。上記アッパーアームの後端側には仕掛けを設け、上記アンダーアームの後端側には仕掛けを設けてある。上記アッパーアームの仕掛けは、アッパーブレードとこのアッパーブレードの後方に配置している疑似餌本体とを備えている。上記アンダーアームの仕掛けは、重りと、この重りの後方側に配置してあるアンダーブレードとを備えている。

【0005】

【発明の実施の形態】この発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図1に示す疑似餌であるルアー1は、V字形の接続金具2と、上側の仕掛け3と下側の仕掛け4とを備えている。接続金具2は、ワイヤをV字形に折り曲げて上側をアッパーアーム21とし、下側をアンダーアーム22としてあり、このアンダーアームの後端部側（図右端部側）をアッパーアームと平行になるように屈曲させてある。アッパーアーム21の後端側に仕掛け3を設けてある。仕掛け3は、図1ではアッパーブレード31、ボディ32、スカート33及び針（フック）34により構成されている。ブレード31、ボディ32、スカート33及び針34は、図1左側から右側に向けてアッパーアーム21の軸心線上に順次配置されている。アッパーブレード31は、アッパーアーム21に回転可能に取付けてある半円弧状に折り曲げられたクレビス35に取付けられており、このアッパーブレードはアッパーアーム21を中心として回転可能である。クレビス35は、アッパーアーム21に取付けてあるピース36、36間でその位置移動が制御されている。アッパーブレード31は、幅方向を切断面とする断面形状が円弧状に形成され（図2）、正面形状がほぼインディアンタイプとなっている。またボディ32の軸心にはアッパーアーム21が貫通されており、アッパーアームはこのボディから突出している端部に針34がスプリットリング37を介して接続されている。ボディ32は図3及び図4に示すように多面体で形成され、図では八面体となっている。ボディ32の軸心部には軸孔32aを開けてあり、この軸孔にアッパーアーム21が貫通している。ボディ32の後端部にはスカート33が取付けられている。ボディ32とスカート33と針34とは疑似餌本体であるルアー本体を構成しており、スカートの後端側の中心内部に針34が隠れるよう配置されている。針34の種類として、図ではトリプルフックが用いられているが、ダブルフック、シングルフックなどの種類の針を使用してもよい。またアンダーアーム22の後端側には、仕掛け4を構成する重り41とアンダーブレード42とが設けられている。アンダーアーム22の後端部は、重り41の軸心部に設けてある軸孔41aを貫通し、重りの後端

から突出し、さらにその突出端にはスイベル43によりアンダーブレード42が回転可能に接続されている。重り41は、多面体であって、例えば図5に示すように八面体に形成されている。スカート33とアンダーブレード42との位置関係を説明する。図1に示すようにスカート33の後端部は、アンダーブレード42より後方（図右方）に突出され、スカートの後端部の下方すなわちアンダーブレードの後方にスペースが開けられている。このため、ルアー1が湖沼の底面に接近して遊泳している場合でも、スカート33の後端部と底面との間に一定の空間が開けられることになる。この結果、上から下に向ってルアー1にアタックしてくる魚はもちろん、下から上に向ってルアー1にアタックしてくる魚の食いを良くする効果が発揮される。上記の構成であるから、ルアー1の使用時における遊泳中の姿勢は、低重心の重り41の存在と、アッパーブレード31とアンダーブレード42との回転作用により、図1に示すようにアッパーアーム21と仕掛け3とが上側に、アンダーアーム22の仕掛け4が下側にそれぞれ位置することになる。このため、ルアー1の下側の仕掛け4が底面に着地している場合であっても、ボディ32とスカート33と針34とからなるルアー本体は常に底面の上方に浮いた状態となっているから多方向からアタックしてくる魚の食いが良くなる。そして上から下に向ってくる魚は、上下のブレード31、42の動きに誘発されルアー1に近づき、動きが激しいスカート33を介して、針34に食いつくことになる。また下から上に向ってくる魚は、図1正面において、下側のブレード42より、スカート33が右側に突出しているために、下側のブレード42の動きに誘発されて、スカート33に食いつきやすくなる。このように、多方向からアタックしてくる魚を確実に捕えることができ、いわゆるヒット率の向上につながる。またアッパーアーム21の軸心線上にアッパーブレード31、スカート33が配列され、上側に浮力体の作用をするボディ32を、下側に重り41を配置する構成であるから、上下のバランスが保たれ、重りを中心としてルアー1が倒れにくく、常にスカート33が魚の食いやすい位置にあるために、魚の捕獲率を高めることができる。この安定した姿勢の維持は、ルアー1がゆっくり遊泳する場合にその効果が発揮される。さらに、ボディ32及び重り41を多面体とすることにより、光の乱反射の可能性が大きくなり、このような乱反射があたかも小魚のような光る効果を持ち、魚に対してルアー1への誘発効果を高めることができる。またブレード31、42を上下に配することにより安定姿勢をよりよく保つことができる。さらに重り41を多面体とすることにより、水中の底層での使用中に底に接しても、重り41は回転しにくいから、ルアー1が倒れにくく図1に示すルアーの起立姿勢を保つことができる。

【0006】発明の他の実施の形態を図6乃至図13を

参照して説明する。図示するルアー11の基本的構成はルアー1のそれと実質的に同一である。このため、ルアー1と共通するルアー11の構成については必要な場合のみ説明し、以下に相違する構成について説明する。図6において、接続金具12を形成する一方のアップパーアーム121にクレビス135を介して取付けてあるアップパーブレード131は、図7乃至図9に示す例では幅方向両側を斜め下方に立ち曲げて皿状に形成され、表裏両面は長さ方向に長い平坦面131aを挟んでその両側に傾斜面131b、131cで構成されている。このため、ルアー11の遊泳時にアップパーブレード131の平坦面131aの基部から後方に水が流れてアップパーブレードは起立状態で回転し、回転スピードが上がり、ルアーの姿勢の安定に寄与し、ルアーの引きが滑らかになる。またアップパーアーム121に取付けられているボディ132は、図10及び図11に示すように、その軸心部にアップパーアーム121が貫通する軸孔132aを開けてあり、この軸孔の回りに空洞部132bを設けてある。空洞部132b内には複数のボール132cを移動自在に収納してある。空洞部132bは、ボディ132の浮力体としての機能を高めるためである。ボール132cは、空洞部132b内の移動に伴って生じる空洞部内壁との衝突音やボール同士の衝突音により、魚をルアー11へ誘うためのものである。ボディ132は、必ずしも空洞部132bやボール132cを設けていることを要しない。ボディ132は多面体とし、図11では八面体としてある。またアップパーアーム121の基部側にはパイプ138がアップパーブレード131に隣接して取付けられており、パイプはピース136、139により位置決めされている。アンダーアーム122の後端部が貫通している重り141は、図12及び図13に示すように多面体(図では八面体)に形成されていると共に、軸心部には軸孔141aとその後端側に凹部141bが形成されている。軸孔141aを貫通しているアンダーアーム122の後端部が凹部141bに突出し、突出端にスイベル143の端部を接続している。スイベル143の端部側を凹部141b内に位置させて、ルアー11の遊泳中に藻がスイベルに絡まってアンダーブレード142の動作を妨害しないようにしている。アンダーブレード142も、アップパーブレード131と同様の構成となっている。142aは平坦面、142b、142cは傾斜面である。図6において、13及び14は仕掛け、133はスカート、134は針、137はスプリットリングである。ルアー11によると、ブレード131、142、ボディ132、重り141がすべて多面体に形成されているので、ルアーの遊泳中に光の乱反射による小魚のような光る効果を発揮させることが可能となり、魚の誘発効果をルアー1より高めることができる。またルアー11はルアー1と同様に、低層で遊泳中底面の下側の仕掛け14が定着した場合であっても、上側の仕掛け

13のルアー本体(ボディ132、スカート133、針134)は底面から上方に所定距離浮いた状態にあるので、魚の食いに支障が生じず、捕獲率の向上に寄与する。

【0007】

【発明の効果】この発明によれば、アップパーアームにはアップパーブレードとこのアップパーブレードの後方側の位置に疑似餌本体とを配置し、アンダーアームには重りとこの重りの後端側の位置にアンダーブレードを配置してあるので、従来例に比較して上から下に向かってルアーにアタックする魚を捕える効果を高めることができると共に、遊泳中の姿勢を安定化することができ、しかも疑似餌本体を常に浮いた状態で遊泳させることができ、魚の捕獲率を高めることができる。この発明によれば、疑似餌本体の後端部をアンダーブレードより、後方へ突出させるようにすれば、多方向からアタックする魚の食いを良くすることができ、魚の捕獲率をよる一層高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施の形態を示す正面図である。

【図2】アップパーブレードを示す拡大側面図である。

【図3】ボディを示す拡大正面図である。

【図4】図3のI-I線断面図である。

【図5】重りを拡大して示す図1の左側面図である。

【図6】この発明の他の実施の形態を示す正面図である。

【図7】アップパーブレードの拡大正面図である。

【図8】図7の平面図である。

【図9】図7の右側面図である。

【図10】ボディを示す拡大断面図である。

【図11】図10のI-I線断面図である。

【図12】図6の重りを拡大して示す右側面図である。

【図13】下側の仕掛けを示しかつ重りを断面としている拡大正面図である。

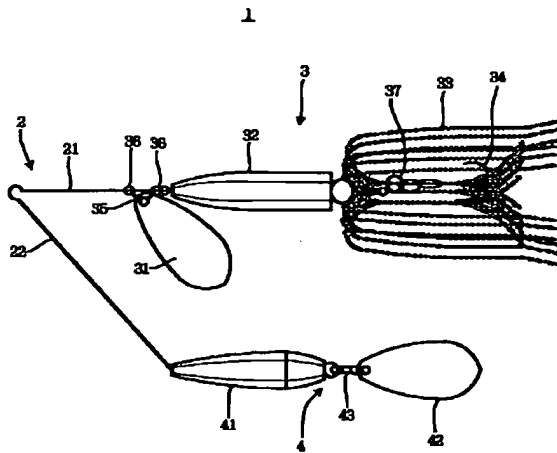
【符号の説明】

1, 11	ルアー(疑似餌)
2, 12	接続金具(接続具)
3, 13	仕掛け
4, 14	仕掛け
21, 121	アップパーアーム
22, 122	アンダーアーム
31, 131	アップパーブレード
32, 132	ボディ(疑似餌本体であるルアー本体)
33, 133	スカート(疑似餌本体であるルアー本体)
34, 134	針(疑似餌本体であるルアー本体)
41, 141	重り
42, 142	アンダーブレード

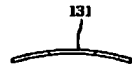
7
43, 143 スイベル
131a, 142a 平坦面

8
131b, 142b 傾斜面
131c, 142c 傾斜面

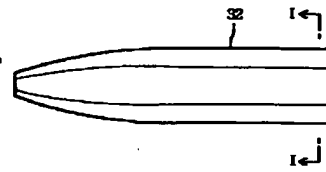
【図1】



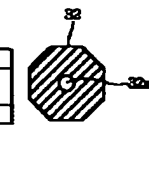
【図2】



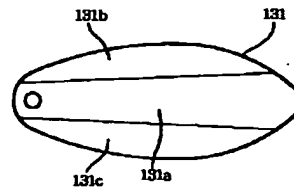
【図3】



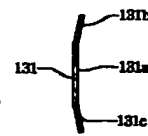
【図4】



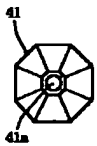
【図7】



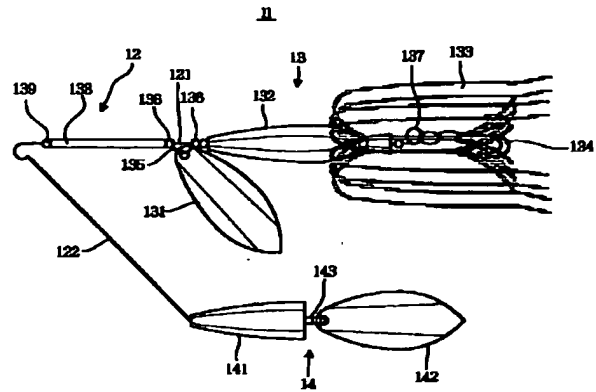
【図9】



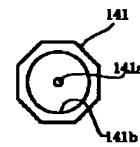
【図5】



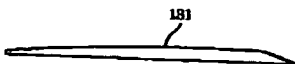
【図6】



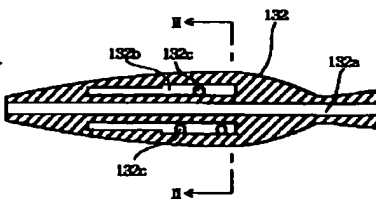
【図12】



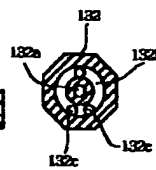
【図8】



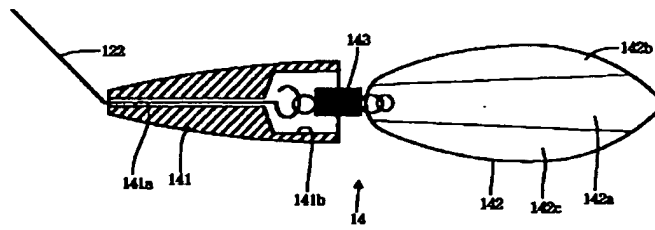
【図10】



【図11】



【図13】



PAT-NO: JP02000060365A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000060365 A
TITLE: LURE
PUBN-DATE: February 29, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KAWAMURA, JUNPEI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KAWAMURA JUNPEI	N/A

APPL-NO: JP10236847

APPL-DATE: August 24, 1998

INT-CL (IPC): A01K085/18

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a lure which can be well bittern by a fish attaching from many directions and whose posture stability is improved.

SOLUTION: This lure is obtained by disposing an upper blade 31 and a lure body comprising a body 32, a skirt 33 and a hook 34 on the rear end of an upper arm 21 which is one of arms forming an approximately V-shaped portion, disposing a sinker 41 and an under blade 42 at the rear end of an under arm 22, penetrating the axial center portion of the body 22 with the upper arm 21, connecting the hook 34 to the rear end of the upper arm, penetrating the axial

center portion of the sinker 41 with the under arm 22, rotatably connecting the under blade 42 to the rear end of the under arm, and rearward projecting the rear end of the skirt 33 from the rear end of the under blade 42 to form a space below the projected end of the rear end portion of the skirt 33.

COPYRIGHT: (C) 2000, JPO

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☒ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.